

探荷集二編  
上





探荷集序



今も何を言む以備  
はさし試ういふ人曩も  
二編探荷集題辭一と見  
と世雲中老人能雷少應  
平既其終試志はくは  
點章のまほり四等お徳と



是より白ひ郭公に花を  
月より雪に照る  
今東西より芥と乞  
白く其教先師に在  
多由句成増たすや  
余光孔聖の心  
徳子又風流の獨

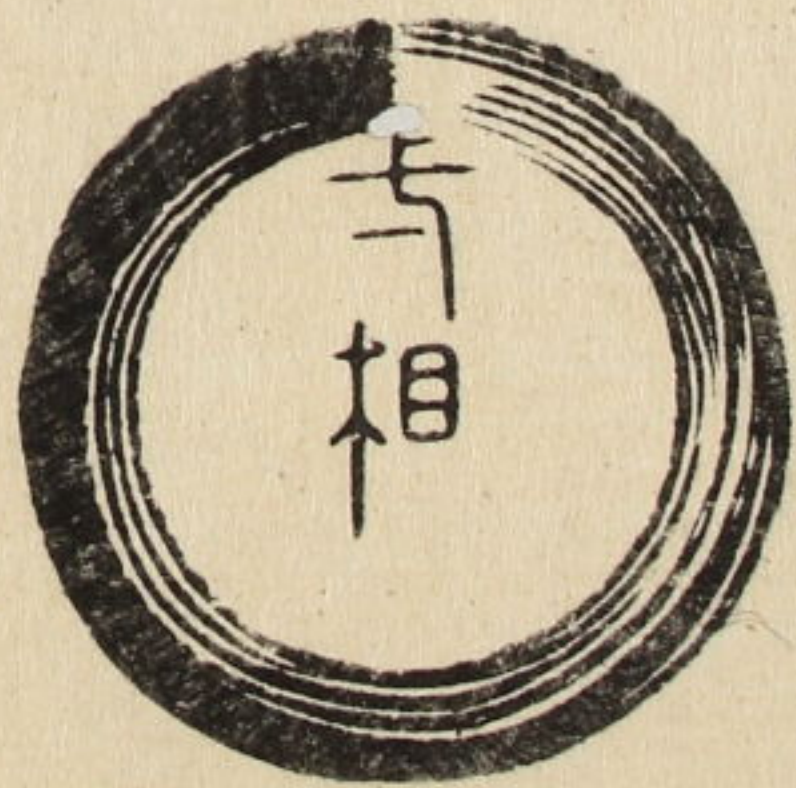
素心競飛ぶ四時乃香逸  
を結つる少くは教下  
一冊子ふはるも  
分つれん坤を  
嘗て校訂と午心一  
骨由るる務多  
謂の在記と和園と題解



新編...  
言...  
也

太乙樓不騫

寛政元 酉 晚冬



探荷集六編 乾

雪中菴完来判

午心 著

一鷺

六印

酸乃味と 別 equal 之花の香 時中

白妙子 耳は 意は たり 意 普成

茶法 香の 香は 入て 入て ぬと 得魚

了 多ぬ 扱と 地と 入て 入て 入て 玉宇

探荷集



夫さねと光なるりら后月

婆城

探荷春之部

元日や鶴鶴むとつ殿のふ

不騫

元日や草のふのふも茶日和

柙絮

志川のふも海ふふ下明の春

楚狂

房川南谷

此も結是と鼎をさ川為

水衣

上徳大寺

万葉結旭ひて糸ひり

南竹

大鵬を懸て糸ふを隔あむ

雨吟

氷降子ハ朔梅と物乞ひ乞

太橋下

木奴

果敷の袖をかけてる日か

全

草石

ふつふつ夜ふ結糸が

布谷

父母いさむ樹あんなつ鳥

欽夫

元日とんゆせとまきつる

太橋下

午心

杉子稲けそ新ん初日新

木奴

虚夫子とつたの影や初日山

全

一鷺

伊勢津

元日や母とほくむふ柏子

浪帯



蓮葉のついでとゆる初日が 音成

若水やあふかのついで、梅柳 午心

深杖の母あふのついで初日が 栖性

浅草の佛しより福寿草 六葉 五桂改

二日ついで月の友あは門の松 完路

門松や人の子枝乃礼祭 不審

湖や二十一社の初日歌 崇秀

文日のついでなる夕陽 奥交 奥柳舎

かゝ衣え日さゝ思ひ危 一也

まゝのついでぬ園のまゝや初日歌 西吹

日月の青ひなるへしついで 木羽

八葉乃峯まはるを恵方乃 文流

二日二日見えて峰あは松飾 我川

四五日のあついでついで福寿草 栖性

偃てえゆ歌歌あは師 兼 生松

陸奥乃山子生あゝ福寿草 千際 奥白川



土川忠結を好田子人いなりりり 一

門松や志のあふ源き月も有 小田 至城

優曇是結咲かりひび門崎 白尾 貫怒

さしあつちのいもあやうさ 小田 午心

平代の市中(出)ら傀儡師 小田 栖城

永日や舞子とのそ傀儡師 小田 未志

浅茅生を濡そせら傀儡師 吐方

とあひあまを位を傀儡師 午心

人形子急の風や傀儡師 星衣

つゝつ呼吸橋川の勢断腸を 不審

橋川や其世つゝのり水の月 大乙橋下 卓石

あ見よあせそを賣を懸想文 星衣

海川やあつちの中はハ〜証 布谷

急の影結蘇友なき夕アハ 午心

鈴晚の日は顔〜さう若菜ハ 普成



若菜中やまきの日は連つ

太し梅下  
一鷺

ましまく 恥味増もさき 蘇が 時中

梅子家 家よ 海乃 旭が 管成

梅くわ 梅くわ 梅くわの 道あき 欽支

梅くわ 枝くわ 梅くわ 夢川が 秋免

此樹もも 春をほくわの むめのま 仙露

まよふもむ 枝のあく 梅くわ 夢阿

梅くわ 木のあく 麦結山田が 午心

お梅ハむ 免の 顔目を ぬきうふ 夢阿

菖の 梅あけ ぬき 寺浅が 不審

吾羊の あく きらやむ むめのま 文甫

一輪の 香もさや 梅くわ 星衣

あくと びる 花結 梅くわ 一鷺

りあけ ぬき ぬきのま ぬきのま 栖埴

清寔の 筑をくく 梅のま 吐編



祖乃む免香もほろくと嘆けり

午心

ちる梅をかいつく後あそ生ふりり

後府 相君

半日の客のこまき梅柳

春人

梅もあも一日つれお望うる

星衣

松を友よえ越乃枝や城の梅

吊城

空の後に言ひきり梅のあり

娥月

梅くや小念まぬの透清を

一也

む免室や而く干涸の言

武考之 素朴

梅の結層ま志むを澁詣

不塞

梅くまのこまのこまのこまのこま

白麻

くさひま結る言や不二見あつた

不塞

骨子湧らん梅の下法を

管成

くさひま結る言や不二見あつた

後八幡 我交

骨やけりも知もあつた寺

奥柳全 一風

くさひますよまの言乃梅の梅は

吐芳



上并不天洋

夢や老るは後此位山 大槌

いさひまや水橋子時津風 左席

さる年子夢を飾る日さし 不審

いさしきのかよひ袖りり夢の乃 楚犯

夢や昔々乃夢は西子啼 後府 於泉

うらひまや風子身ゆる大井川 後城腰 碧林

いさひまやあささうら乃林 菅成

いさひまや足子喜ゆる 小田原 眠石

勅額よりいさし教を化せり 全 是見

いよきの菜いしは果て 太し橋下 卓石

伊吹根の蓮摘之 春の病 一

志くをたす ら子睦月ま 午心

春は ちり合子積り 志藤

淡 さや喜 あつ 午心

お る 鼓の ま 洗耳



山多結岩子林しきをぬぐ

濁魚

車ねをひ合ねる子残り

遠横地 岩窟

次しやをぬの大河をぬ

玉宇

車結を木賊のし子積り

不騫

車のをし只しをくぬり

柙紫

車ねをしつしもし雪のし足し分し

伊勢津

浪節

をぬるしはしのしりり車結を

蓼助

をぬるしやし火し乃し茂しもし梅し橋

玉宇

をぬるし子しのし干しをぬるし日し和しは

玉磯

くちぬるをぬるし空し子し降しりり車しのしを

木ね

をぬるし結し能し田しをぬるし啼し煙し

曲肱

をぬるし菜しのし二し菜し子しのしぬしかしるしは

後葎

李逸

三井のし種しをぬるし初しをぬるし煙しは

後城、娘女

多寺

晴天乃し山しをぬるしをぬるし煙しは

栖煙

をぬるしくしこしぬしあし啼し煙し

白麻



一寸の古子耕まかろつ小 小田原 萬冷

戸沼敷乃札の卜や啼嘘 小田原 眠石

栲杖乃伽羅やまゝん明嘘 不騫

以水とるゝ人紙のかろつ小 方と橋下 一鷲

水中を修羅乃樹を唱嘘 寧秀

眼のち子不蓮栲杖紙月 月也

是ち紙神子運取を紙月 夢助

紙月啼ぬ唇乃紙喜小 山松

きささききの草や津の紙也 小田原 二條

陵子宿壺まゝるや妻紙月 小田原 砂月

南山の早し神もけ紙月 小田原 十曉

車紙月厨籠の紙乃妻紙月 全 素兄

衣と世紙屋よ紙よ鳴の月 後鴨田 菅成

鞭指ふりし系乃や妻紙月 後鴨田 巴石

あま紙の志さうらぬおや紙月 今サの氏川 豊國

誰となく人も海も紙月 方と橋下 木奴



一休の歌(出り) 紙月 鳩丈

紙月 川木子との解上サ大綱 止

遠山子男麻唱おを 紙月 水衣

けいけいぬ流をりり 紙月 兼ち

あき〜免やも橋よおろ月 普成

廿二本あゆくも 紙月 扱ぶ 一也

月子えぬ雨と解し 春月 残月

紙月 佛のりの道志つゝ 其夕

雲帯るなを優美の春の月 不審

春のやゆらふさき如枯すき 砂月

春雨や濡を嬉しき神路山 浅女

草喰ふ雛も何〜 春のぬ 吐芳

春のや箱根りも春のぬ 其礼

春のぬ子濡〜 瀬田規 午心

春のぬや草の中も 拵はら 益兄

小田原



二也子山を降し春は雨 阿山

魚子の鳥を子鳴や春の雨

春は雨木の骨をお乃海が 武尊

春は雨浪舌の乳乃来が 由之

春は雨や海神く落小神森 一也

きつ子の画みくときりり春の雨 房列書木 藤原

古杉子鰐乃るまや春は雨 武田久 江魚

春は雨や按察使の後車乃 義成

春のおや只骨くまき雨の毛 たろ橋下 一也

春は雨やぬるりのまき横の裾 木奴

障ふく星おまやまらぬ 一也

春は雨や京正しき梅柳 後府 矢山

七橋の江あつりこまの雨 投雲

障子ふも離魂の形や描の虫 上サ横田 五柏

きつ子あま禊を出入り橘の虫 高成



東子ふき毒心や指乃也 江尾 白麻

不恐の沈も越らん猫の意 素白

目よさしおのよも〜猫の意 一葉

虫蟬の宿よ人なり〜猫の意 草石

神鏡よ所をど〜り猫の意 披雪

水吹くまら眠まり猫の意 六葉

おとよふもあきあきよ猫の意 金川 ちんけ

まは日や鶴鶴啼く諸多の也 武老久 玉宇

芦の節はえそて風ゆるま日 遠横地 涼花

諸人よく交るやちるの風 奥柳金 柳六

まはのひよつきては髑髏が 天磯

伝言如木の方へ出るまの風 上井原中 木羽

まは風よ流やま〜ん 浮以堂 身白改 舞漬

けしよの故の〜ときらりまは風 完路

湫持を急〜ぬ氏やまの風 不審



いづれをこころにいで出づる 暮の風 星を

松栢の香いかり 暮の風 冬祭

暮の風と夕子 是の山に二月日 披雪

柳先 早苗のまよひ 夕子 午心

行枝と杖のちやうて柳が 崇茂

青柳の風を著する日 柳が 遠丹也 氏古

又るふもふも柳 柳が 下井見川 一路

下陰の佛もゆき柳が

青柳を左ちよこの程が 披雪

陰陽乃枝とち交て柳が 文流

菅の根も移りゆくを 岳柳 探巨

月望の帯て柳のまよひ 木羽

曙も夕暮もあやなきが 涼か 氏古

葉よから建茶子隠して 柳が 君魚

今こゝと伝へし山や 落柳 富味 砂明

此柳の影や 柳のまよひ



折らぬるもみ津りり赤棧 後舟 徑棧

潤水も棧始葉陰津りり 奥初念 音由

棧のふも多啼つらきさ 大橋下 中石

雷も始新らつら 一也

廻廊乃燈もつら 房別下 小衣

ささくももくさきや春の水 音成

春水の中ゆるら 河翠

日の外より海もな 大橋下 完爾

此手洗もおら 全 馬耳

降る 後舟 桐君

心の中をほ 梅堂

春水海油の 奥初念 梅台

春乃海習水 欽支

春水日や 井苞

き半も春日の 完略



雲中より雲を穿てての春日は 曙鳥

春の日は遠くをくぐりて 栖城

淀川のほとりには春の日のうら 鳥月

春の中や草もよき人 遠處 夢うま

沖流く在るもの春の流 左席

春の流を志す如新あへり 夢の

春もよき妻もよき春の中は 上り坂 夢沈

流の流を伊勢の流を日陰に 金川 夢つ

赤くく杉子照日や夢の流 伊勢津 浪依

夏の日を日さすに田前が 大し梅下 草石

春の日や石の流を流の流 遠掛川 口明

埃ぬくが流を春の日が 突坂 梅巴

春の日や藤の流を流の流 後休湯 柳

水もよき種もよき春の川 上り町田 洗耳

春の流 陰雲北に沈り 社月

内宴や月を傾く梅の癖 八丈崎 風互



ひたつゝ六條とそめし 風巾 秋兔

切江巾や川に傾く古伽藍 披雲

夕日さひ扉のまや春の塊 綿城

陽あや三光ささぬ水のく 大し橋下 馬耳

何なく結つむむ日の夕 大し橋下 百我

陽あや糸きてふ笑の屋俵 卯乞

陽あや水一筋の嫩 大し橋下 午心

陽あや心乃而抱めさるり むさしや 女升

陽あやあち集る水如月 不審

陽あや湖子續く不二の裾 大し橋下 木奴

陽あやうぬ水あき河系 小田系 朱鷄

陽あや橋上いまさ鈴の月 ちし橋下 馬耳

山を老僧多し 後水添 松のま 完路

かさしなむやゆん 後水添 松のま 雪母

余す地 小田系 寶なま 松のま 抽芽



松の志那や百歩乃橋下 榊繁

黼をく煙乃くへや夕雲雀水戸 青麻

夕雲雀乃くや不二の砂走 文呂

日を橋下孤雲のく乃雲雀下 管成

泰山を喜下押む雲雀下 晴里

流るまで鼎下乃く乃雲雀下 曙鳥

近水の中くく流る雲雀下 大橋下 君山

白雲乃幻くく雲雀下 南無言 完山

木の宵く海志つ下揚雲雀 大橋下 一鷺

ふ奥や流るるも秋のあ 木羽

一休の杖下流りつ下 老阿

燒也系下乃く乃映下 卓仗

つ々川の足流下乃く乃田川 全

峯入やくくへて坐る初橋 星衣

水佩刀の割并下乃く乃白魚下 大橋下 木奴

草を出る稚子乃く乃砥の波 嵐言



雛子鳴や今を指し向ふ山 東壁

海苔紫や湖に深き萩の蔭 大し梅下 木奴

雛子結髪所より綿を巻くより 遠敷 蓼子主

雛子の知梨子の葉ちる夕景 遠敷 中和

月子蝶夢火の煙子からさるり 星衣

耳やあはれ佛法傳ふ心故蝶 一也

ふきぬ子友もうつしの形故蝶 糸巻

水口の神形もうつしの形故蝶 不審

縞の尻干て去つる心故蝶 善成

と川蝶子逢ぬ木園ぬ心寺 樹川 其桂

風子蝶侮る心故蝶 翅り心 布言

芥ハ子子苗代何り庚ら心 午心

雨日くは布苗の水田を心故蝶 志静

細中雨もむらりハ天王寺 一也

苗代もあつまきハ三の雲を心 葉子

とる年や田も結成乃心切心 一也



むよりりちの午後あきさく人 完明

鳩となれ響の心も福らんが 雪堂

ちの午や按系使ふまひく家 懺 奥桐念 孝 侃

出代や所ハ刈あき 糠代衣 星衣

出代や腹さへ水の釜 午心

お代の魂よりけ 鏡うふ 全

出代乃法善舎まきふ女が 上戸大多茶 子 椿

出代乃洗濯むまをくのちが 氏府彦久 涼茶

敷入や藤のちも 房列 水衣

一休のまき 右と橋下 草石

子を思ふ露の舞目や二日矣 遠方丈 左株

葉の赤や一日ぬまハ多の中 奥白川 虚山

あひ出の茶放衣や井の秋 有隣

葉の赤や 房列 蓼二

夜暮 房列 寔山

深六七

二十



煙々夕日の影やむ〜遊

磯月

須弥山の如く能きり遊の菓

上井小西 仙菓

本影形影為さる〜む〜遊

ちこ梅下 草石

菓をうける影の梅やむ〜遊

完尔

む〜遊冥乃靱さるゆりり

枝雲

む〜枝の山吹揺て湯さる

山松

山より流をいつく仕丁が

登雪

も如菓や還るさる版笈子

宗壽

八橋乃花のう〜き莖が

後法寺 官松

三月の人聲も帰丁

梅舎

内宴乃其日ぬ〜ゆ丁

一也

ゆ丁や花さる天の峯乃雲

不寤

ゆ丁風えり日乃北よす

上徳大田

あゆみの句ふ翅やゆ丁

保恭

雛多々陸奥山のおひら

小田原 曉長

雛松や左西火影を二ツ星

本文律 大桂



仰心を一雪よしそむおなひ 京系

むききの影のゆゑ 鶴合 榊系

湖の雪跡して 汐干太橋下 一鷺

曲小や叢みゆきまおの 由由 一丈

曲をまうひささるゝん 洗牛

流敏の流うつれつゝ 牛舌

二月の地もひまな 楓卓 老阿

吳井の杖賣 枕乃種系 奥初倉 一鳳

是林しそ二日見えちや夕さく 不審

あひそぬ橋脚んさく人 杉母

ゆゑや誰植すゝ初橋 遠掛川 其桂

あさくゝゆきそ 雪人

松柏の友もゆる山さく 秋鬼

是子鳴ゆしそ 生松



まり〜ハシア〜りりち〜極  
 木好  
 山く〜の〜極  
 玉宇  
 初使門〜けハ〜極  
 社月  
 岩崖ハ〜極  
 栖城  
 星子〜我〜人〜りり  
 得魚  
 出天ふ〜〜極  
 全  
 一山の〜〜極  
 善成  
 流〜日〜山〜極  
 河

星の山ゆ〜〜極  
 全  
 山〜多〜〜夜日〜極  
 眠石  
 山さ〜〜又〜〜極  
 星衣  
 忘〜〜極  
 善成  
 降杉や〜〜極  
 午心  
 教〜りり〜極  
 全  
 星〜時〜〜極  
 暮二  
 山伏の見〜〜極  
 一



西飯を戻して涼し山さくら

松濤

上縁木文伴

美き水と鏡のまじりたる

清魚

月あかりのまじりたる

菅成

曉の虫 携り架す

卓杖

おろしーの腸つゝ

彭壽

花を一山 雲と鳴る

素文

透宵がきしそみぬらん

星衣

雲の山 紫忽 脊負ふ

午心

王城へながるる びきぬ 雲の枝

十曉

小田系

白き草 一輪をさくら

星衣

骨くさき 雲こりりたる

木羽

雲を教 伴日乃 雲は

完路

我心の 雲を

雲耳

秀るる 白くぬる 山さくら

全

お井も 涼し

欵吏

傳授を 志す

星衣



入るそ 江之よ かなぬ 虫の山 全  
 出た日と押し ころころ さらさら 可丈  
 藤房よ 連日 あり 山極 洞旭  
 是よ 人 獅子 心 中の 毛 連琴  
 西風の さらさら さらさら 橋下 吟を  
 嘆き あり あり あり あり 夕極 全 一 鷺  
 武老久  
 六羽の 傳 あり あり 是の 山 涼茶  
 傳 を見て 是 見 出 心 夢 河

梢 鴨や 三 夕 さら  
 上 徳 版 也  
 志 静  
 ち ち ち 彼 岸 也 七 日 説 せ たり  
 房 列  
 水 衣  
 是 二 本 三 本 好 あり 風 情 也  
 奥 柳 会  
 真 交  
 四 十 一 十 傳 多 の 山 茶 の 山  
 遠 柳 柳  
 吾 友  
 限 何 難 事 あり あり あり あり あり  
 後 八 橋  
 我 友  
 白 雲 あり あり あり あり あり あり  
 一 鷺  
 ち ち ち 茶 あり あり あり あり あり あり  
 大 二 橋 下  
 一 鷺



日月の方ちききし山さく

文流

伝よきも草木の中を山極

徳田 巴石

雲のちき峰はぐくま夕日

武考久 涼景

舟草は棺めしききさえび

布谷

むきひ流らん岩代の松子菘

完名

むつろの根を換草と菘の香

惟一

菘のか鞍乃か偏子鏡子りり

小田 賦石

あゝ菘や水巻整子雨の月

ひまおろをりし船りり

蓼多二

鶏乃紫陌の啼や善の香

曙鳥

ひまや洲禪定おろし法所

後法 晴里

ひまや坊も出ひさ切子

雨十

まゝの尸えきひ善の香

文足

志賀寺のしし出り善の香

音成

復之部



更衣今ともしも昔は  
柎架

水吉の袂くはるや更衣  
社月

あ流石中よさるや白重  
午心

子母浅く袖あはるや更衣  
梅曙

志々重人よも昔は残月  
一鷺

信吉結志きりよなき裕下  
昔成

言のめりて暖かき更衣  
綿城

画合結くはるすくはる青簾  
得魚

青まき道と和信の夫と透るは  
不審

玉むの遠きやりる青簾  
木奴

あかりふきよはるはる青簾  
砂月

此風よはるはるはる青簾  
柎城

此多はるはるはるはる子規  
奇白

あ子よふ妻よはるはるはる  
雁赤

以合の結くはるはる子規  
星衣



翅~~~~もや摩らんかきまき  
 ほ~~~~きんらの松よ時日  
 誓を成る~~~~ほ~~~~  
 下言のはな~~~~さよ子規  
 心~~~~きんる下よ月の岬  
 けこめよふこもるあよ時  
 白川の松見よ似ら子規  
 ほ~~~~きん其あよを~~~~  
 得魚 全 普成 午心 未羽 完路 夢二

ほ~~~~きん叶を結るあの方  
 夢ま日もあよ~~~~子規  
 お~~~~きん秀るあ~~~~  
 我印ら耳よ恨免あ~~~~  
 舞ふの心通あやほ~~~~  
 ほ~~~~きん連か~~~~あつ目  
 さ~~~~きん~~~~あ~~~~  
 啼あ~~~~人よ~~~~子規  
 放園 河翠 午心 完路 一夢 秋兔 生松 栖蛙

伝  
州



夏草を分けるもつら子規 雨静

あつたき素をのまを責る知家 砂月

ほろろきす一夢板の古紫子 彭寿

志は雲を汝ら草莖を子規 全

神の丘佛の如やあつたき人 一也

鳥乃初終は雲井乃子規 晴里

あつたのぬし神をあま子規 夢河

まね夢や雲井のあつたき人 善成

あつたき人不臥梅子奴子危 小田原 素只

浮雲をへのまを啼を子規 完治

生る疾そりふもつらあつたき人 玉宇

か、ほろろ結露ぬぬあつたき人 大橋 一鷺

柳子奴をす早やほろろき人 武蔵 涼花

堆き鏡齋山やあつたき人 榮秀

ほろろき人望越川をあつたき人 物我

子規 望さへ東 濫可 南 曙鳥



あゝあゝ新田の楓黄より 雨吟

忘まひの山や出らん子規 淡海田 紫英

此杉よはしを鳴るや 上総湯白 左株

あゝあゝ素山結りありを 上総大綱 藤鷹

武隈の杉又鳴らん 上総大綱 藤止

いそぬきしりり 氏老之 柗絮

あゝあゝ松系の幹を削る 氏老之 源景

ほゝゝあゝ又ほゝゝ 氏老之 全

けあ子笛ぞ 氏老之 桂花

ふぬ乃曉ぬ 後唐 十曉

新波 後唐 荒振

今暎を待て 遠右川 史鳥

かまの 全 四明

あゝあゝ梨 上総中田 馬童

杜若花 淡川 季逸



持より歌あしきまじりし 杜より 卓杖

かまのしきまのふらふやうし 得魚

杜若花をみとる花透方り 玉守

をのしき花ゆきま健を杜より 白走

咲より青田花隈よりまじりし 孝念

かまのしきし柴も又まじりし 永念

檀木よりまじりし花子のゆき 蓼多二

一花をとほせしとし 花子のま 吳外

咲日し教をかきしと花子のま 浄念

川松魚佛の肌より魚藍のま 曲肱

いへ向て針や花しと花の松魚 午心

海中のま花越しと初松魚 星衣

人參子息と花しと初松魚 普成

おしき死し松魚よりり友のま

二十筋の徑き筋と川松魚 君魚

旭より望しとの花や初松魚 得魚



三井寺姑清和厭々一担鮎 彭壽

雷の傳子賜ふを望み取ぬ 押繁

念佛ハめくまふよ佛生舎 布川

産あり申すのかや佛生舎 有隣

出ろり子く子雨乃蝸牛 完洛

志くま子くくんとまく蝸牛 房列南言 完山

蝸牛維摩の縁をつひり 上徳返也 舞鏡

馬鞍の蓮次一 蝸牛 文足

十牛の心く成へ一 蝸牛 得魚

我おふ枝み遠く蝸牛 海城

蝸牛楠乃大枝多しりり 菅成

山蝉とくく雨の蝸牛 房列 水衣

くまを翅のくく 蝸牛 午心

秀嘉子清きりり 蝸牛 庄丹

曙乃夕風舞歌若紫 小田系 眠石



口きけり濡き海き若紫左井

高き考を幹子ゆきて若紫栢

筆や白樂天乃毒如月奥白川 芝月

三態中、波うち入山鳥怪星衣

日ハ栢のよをゆい言のま一

小座を運ふてゆい言のま全

ころりも藝あまき考や若紫物我

藤昔や五人をなまそ若の月後山 耳雨

難波女乃等子ゆい子大橋下 馬耳

ゆい切や若んゆい子完

下考子ゆいゆい子得魚

腰りけて卒於築子ゆい子奥柳倉 一鳳

思ふゆいゆいゆい子小田 曉長

福系乃ゆいゆい子上徳木文律 富琴

閑て若る目をまゆい子午

月日るぬ枝子ゆい子三風



湖の底に啼日やかんこも 河原

おとろの秋をいひ不気も 鳩文

腹つみりんこも我合せらる 久川 音白

聖代のゆきも 不気も 善成

名波の穂又よやかんこも 小田原 益兄

よのこも 不気も 眠石

かんこも 大さ五石はこも 萱坡

閑心も 耳ハも 不気も 林定

橋の月恐多も かなの楚りり 午心

おとろの宵に 淋し ぬぬ 橋の介 小田原 曉長

香は月心も 橋を ぬぬ 文流

橋原 湖月の 天人 並ひりり 上井大次郎 秋栢

唯一乃一筋乃 乃 乃 乃 乃 定雄

神隠し 孫や 乃 乃 乃 乃 全

沼の 柳 焚 乃 乃 乃 乃 吐芳

光陰の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 小田原 捨角



葉さくらわ心室の下るおゆ

白川

二鳴

河骨や日と午は眠るまの色

後府

枝老

青梅子聖天吹く梅さりり

上総大宮

秋栂

袖のちや月を東籬の垣を

全

氏冬

紫陽花如時川津く流り

上サ小西

仙菓

紫陽花子竹く龍魂の如く

砂月

紫陽花如花をさりりおの藤

曲肱

苔山を吹くとすく百合の葉

全

まの茄子や糖味竹桶の赤くつ

左株

茄子板子のせき出さるや初茄子

巨水

若井や紫末子ちりき秋の雲

砂月

若井の裏と表子比れ月

好魚

希くは山や湧らんを井

後府山

六公

若井やをくくせハ啼樹

大子橋下

馬耳

百合吹や蜂人を追ふ山の壁

久川

次白

白鳩乃 迂路を追ふや青嵐

星衣



青瓦夕月遠く心遣り梨 葵阿

柏の心を想ふふり事 素文

秋の心なき風物道徳 砂月

秋の羞み無き心 青皎

深安き人の心 白心

多きハ白ぬ乃任矢の癖 水衣

水厨を去暮り系乃 卓杖

水一や木曾ハ憾も松竿 水衣

帷子や裾を去れむの波 牡丹

帷子や水に浸し 仙菓

玉をと裏見の流や 紫秀

植てし田舎門乃 西日 石翠

植初て傳ぬ日のなき田面 葵阿

志くまぬ中々笑ふ 曙馬

くくろくろくあふまき田 总兄

むつ馬の中や田植乃 筑戸 十曉



雨の母の若をさふ田くへド 小田原 曉長

わらわめとてのな田植が 上徳西田 知雄

任りの神も漕へる苗舟 武友久 洗耳

雲天子帯て田植乃 房列中田 涼星

早し女や水と等しく流ひり 大工橋下 鴉声

五月多や鏡子ゆき秋の末 上徳小西 一鷲

朝日子傳と一のり五月雨 友枝 仙菓

雲子日此河を流し五月雨 友枝 東巴

きくくもや晴はり沖 友枝 若成

五月多や雲の中は流成言 友枝 雨吟

多敷の伝つる晴の五月雨 友枝 午心

五月雨は休りり雪の波がいら 河川 文亭

五月雨は晴るまより夜の本 大工橋下 州石

志くも水海とぬりり五月雨 友枝 怒曲

くも夕とかなるぬ五月雨 友枝 亀曳

さくもや多く合伏て井代 友枝 柗繁



五月多女宿子さなり恙虫 柙祭

さささしれや波きりけるき汐干浮 老阿

黒柳のこりちも降し五月面 探巨

五月多や叶まからさいまり松 暮成

暮るつ秋多つりま五月面 曙鳥

さささしれの心まなまいハ晴まりり 玉宇

五月面不二復渡り流りり 文流

孫子ゆを越まや五月面 小田書致

百及の帳子包りり五月面 金河ままけ

さささしれや潮詠答り水の音 奥羽一鳳

五月面水も潮となつるりり 大し橋下一鷺

さささしれや風くまるまる言 君魚

五月多や格を録まり於 礎

ふ山まりまや降らま車ま月面 大し橋下草石

酒旗や漸まるま入梅の雲 莊丹



葛の柴乃うゝ打るや飛堂

管成

あゝも能くも新進る必堂

吐芳

燭くらや我減る母の孫

得魚

あをかつてお糸(出)り必堂

六葉

蚊き火中かゝり續ぶ

不騫

くららつと蠅の余を見捨り

午心

鏡おやもて進ふ能り改の夕

涼花

夕露の掃み蚊乃昭あぶ

午心

蚊き火中や傀儡乃鏡三

布谷

面ふくめて蠅な〜蠅多き

秋白

蚊を焼や夏の〜母の孫

午心

しる所そのよら〜管ふ

祇川

遠く行く目よその妻〜必堂

ちりけ

蚊きちや袖焼禿肌けあ

栖蟻

身を隠も雲ハハつこと必堂

崇義

空六郎は昇る蚊き小

后逸



蚊の如くおもはるる居蟬の

老阿

新くかぬおとろけ子堂小

木羽

有明の鏡子啼を夏の虫

鳩犬

故子相ふ袂ぬんふ拍子

曉長

陰胎子蠅退ふ妻乃探り

十曉

蟬の夢天終る子似る日

午心

啼蟬や血いふおのころいもの

扶老

此虫も古や去りて蟬の夢

茶童

一山乃 枯木も啼を蟬の夢

六娥

日ぬや 遠里に蟬小夢草

午心

蟬鳴や 孤城を子州の中

雪成

いちぢきふ顔より物の間

文亭

魂の物よりけ入るむより

午心

物つひのひかえりて翅のひら

如毛

物はつひやきく瘦る終り

起程

深二七



つゞき物清浅市き方を紙危

連琴

月の下子涼き海河や苔清々

魚

苔清々日陰乃芒私也ルリ

止鶴大綱  
麟止

翠堂よ喜々物多入子苔清々

牡丹

~~~~~小萩を山歌清々

午心

涌るるち爪木撫之下清々

全

立りぬき立き道の家清々

完路

つゞきつハ杉も別名之苔清々

午心

葦乃夏咲香々清々

魚

山鳥のさの道を叫ぶ清々

怒曲

此園の東へちのき清々

一也

湧るるも流るる多き清々

小田原  
曉長

短冊をむく~~~~~清々

全  
線鳥

苔清々~~~~~ぬあ~~~~~

全川  
きつ?

多~~~~ぬあ~~~~~

長梧

深六枕



夏早子るや埋らん啼鳥 玉守

夏州七蝸牛の角如一捧 式小中官 江月

夏影や星よりくもる破滅丸太 大し橋 一鷺

夏子や小中く鷲も秋の如 好魚

夏草や馬蹄如藝を風の如 柶吏

夏の州子省のりき志けり 波田 鬼印

志蓮子秋音ゆる高ひ色 得魚

夏秋の七さえゆる交也 奥押金 梅溪

凌霄の露を日射るぬくし 錦城

志蓮や星如まより秋の風 柶吏

火もくもえは蓮可 夏の香 志碩

細乃子草如 大し橋下 志碩

夏影や遠津 遠如成 志川

夏影や枝葉子 大し橋下 一鷺

夏影や波の系も瓊乃浦 茶秀

夏影の 奥柳舎 梅溪



遙逝子復其 嘘呼日引 午心

夕影中馬焚賣 後依表 一夢

夕影中嘘 忘草 彭壽

骨の火が結きぬまや木下宮 小田 十曉

山めくもあつ可明子包 民府中 由之

法華経が風きこりり木下宮 星夜

舉月園くぬまが光が 大子梅下 一鷺

八景とくふ白く五月宮 全 蒹葭

神の地子何ぞふ蒸何と照射山 武小中宮 五楢

復山乃龍人を叫り 秋白

復山や空何くくハ松の風 午心

月早が靱子落て照射式 獲位

矢もぬくそ照射の獲送り 曲肱

友山や松を結ぶ神の蛇 午心

了くのあも送り不二詣 玉宇

神折傳子送り友木之 小田 珠塔



夏山の裾をめぐりて

蛾ふ

山をめぐりて

文母

まゝの松の影を

交流

松柏のまゝに

一雪

すゝみやや櫛もそよぬ松の影 不審

夕まみ 端午の宿をさみり 楓栝

のいふくつをさきまゝに 玉宇

をせぬ葉の破るごとく涼りり 河原

花をさきくつをよるごとく夕涼 五緘

夕まみ人と榆柳の火影が 文有

吉原をまわす中へ夕まみ 茶童

まゝみやや鏡のまゝに 一雪

すゝみやも 椰の山や椰の月 大雄

夕まみみ川をまゝに 麟止

井は流るる子と助りり門涼 不審



六波のろ集るハ夕暮るみ  
浅妻乃浅中一の宵や夕涼 錦城

夕之や窈窕一乃若楓 柳絮

夕之や厨へ何れも神の床 星衣

夕之の静子潮もあつるるり 砂月

夕之やをやこもやぬ表乃表 一境

夕之や売場さしそ水のま 物我

夕之やゆりハ濡るき子傘 挂見

夕之や加茂の勅使の化乃

夕之よ恙むきまの服紗子 玉宇

晒忌る喜ぬ乃静子乃多きり 東川

終まて見ぬ人多し 夏祭 至城

雷子乃静志つむおろひつゝ 星衣

夏夜の君子静るふ柳の苗 寧秀

松蔭乃舞かまつるる心太 青枝



上総河川

九つ、海へ、水見へて、赤葉が

陶居

川、抄や柳を、みどり、萩、芒

河原

交、姑、月、屋、根、の、く、り、篋、が

普成

宵、明、と、名、給、時、ふ、一、夏、の、月

得魚

ふ、兼、乃、ま、も、か、の、り、く、交、姑、月

桂

満、了、時、日、お、と、ひ、の、り、交、の、月

栖蛙

く、ハ、風、の、萩、を、と、送、り、夏、乃、月

鷺

此、厨、乃、水、喜、多、へ、以、交、姑、月

一也

光、よ、り、書、く、物、出、ま、交、の、月

午心

枝、是、乃、忘、ま、後、や、交、の、月

宗秀

小、お、ま、て、ふ、書、多、り、交、姑、月

河原

我、つ、く、し、思、ふ、書、何、也、井、ぬ、人

鳩犬

抱、お、か、や、文、ま、り、流、の、下、流、を

完治

白、骨、と、ふ、ハ、林、一、井、ぬ、人

星衣

短、と、る、記、念、の、伽、羅、や、井、ぬ、人

全



君さふ心を化ま牛ぬ人

仙露

抱きやむる世に扱ハ牛の秋

得魚

初先のなきまえり牛ぬ人

重破

揚ハるか風なむ牛ぬ人

初霞の初暮之川井ぬ人

唐列南記  
文甫

此佛の子やあむ牛ぬ人

技雲

豆めく月々何も牛ぬ山

玉宇

嘆子りり氷室山吹氷室梅

曲肱

復彼の施茶死る氷室寺

可圓

憚乃集や出らん氷室寺

三隣

いさき子娘の梅や氷室山

星衣

津原を耳痛寺後と交氷

後橋田  
紫英

帆々しらの憚子あめき暑が

莊丹

伶人の糖ひめりあつきが

ほ魚

鷲尾太蘭子あめり暑が

星衣



上総大佃

言水を男あはれつゝ暑が山系素白

くひまを女なをくひま暑が山系曉長

秋路子法螺吹奏の初山系彭壽

暑日や尾越の鴨を松山系一丈

は暑さきくしき代山系老阿

鳩と川眼子入海山系探巨

蛇の妻子逢日を草あ山系流

愚妻乃産阿あき暑山系文流

浴しそ山の不二を枕山系午心

祇園令於祇園子山系秋白

祇園まや月ハ遊水山系萬年

多しの嶋牛子笑ぬ山系星衣

吾降乃遊子霧山系曲肱

夕陽乃五山子多山系午心

棧乃於輝山系田二

雲於峯志山系棧車

日一八冬



虫干やはらのや、又此をさ、  
河原

虫干の質をさるるりり  
木文障 油割

虫干乃河骨活し書下條さ  
月産

此も此よりいひて抜川  
砂月

下陰乃夜を著の事乃従来

形付乃情物をさるるりり  
錦衣

流るる付くの時折や米生  
雨今

顧るる如多さよ復をさるる  
昔成



室津田氏

室津田氏



